

自己の教職への適性や意欲を確認するための 「保育・教育研究」のあり方その2

有見 正敏*

Studies in Early Childhood and Elementary Education

Masatoshi ARIMI*

**Department of Human Education, Faculty of Human Studies, Ishinomaki Senshu University,
Ishinomaki 986-8580, Japan*

1 はじめに

人間学部（人間文化学科・人間教育学科）が開
設されてから3年目を迎えた。

人間教育学科は三つのモデルを設けている。

初等教育モデルは、保育や教育の基礎となる人
間に関わる学問、教育の本質、幼児・児童の心理
や発達、教育実習等に関わる学問、教育の本質、
幼児・児童の心理や発達、教育実習等の専門科目
を学ぶ。卒業後は幼稚園や小学校の教諭、教育関
連施設、教育関連企業への就職を目指す。

幼児教育モデルは、初等教育モデルと同様、乳
幼児を対象とした学修をする。卒業後は保育所、
児童養護施設、児童相談所、幼稚園教諭などへの
就職を目指す。

学校心理モデルは、初等教育モデルと同様の内
容であるが、認定心理士になるための講義科目
(25科目)を付加している。卒業後は小学校、児
童相談所、幼児や児童の心のケアにあたるNPO
法人などへの就職を目指す。

本「保育・教育研究」の講義は、2年次におい
て保育所や学校などの現場で観察・参加を行うこ
とで、大学で学習した内容を省察し、今後の学修
への展望を描き、自己の教職への適性や意欲を確
認することが主なねらいである。観察・参加にあ
たっての留意事項や観点などを事前に指導すると
ともに、観察・参加で学んだことを確認し、今後
の学習に役立てる方途に関して事後の指導を行
う。

本紀要は、昨年度の反省を生かした取組と今後
の「保育・教育研究」はどうあればよいかの実践
報告である。

2 昨年度の成果と課題

(1) 学生のレポートから

- ①教員や保育士の子どもに対する姿勢に共感し
ている。
- ②3年次の実習に向けての学習の視点や心構え
を見いだすことができた。
- ③自己の教職への適性や意欲を確認している。
- ④保育所や幼稚園、小学校それぞれの目標や意
義についての理解を深めることができた。

(2) 授業評価から

- ①講義内容に対する意欲や考え方等、評価が高
い。
- ②参観の観点等、事前指導を含め、授業計画の
見直しが必要である
- ③教授法や話し方はやや評価が低く、今後の改
善が求められる。

(3) 全体反省から

①事前指導の充実

観察・参加に当たっては、服装や挨拶、マ
ナー等の事前指導の徹底を図るとともに学校
や保育所の様子を映像で知らせる。また、観
察・参加する観点を具体的に指導することで
意欲を喚起していく。

②観察・参加の回数

昨年度は小学校2回、幼稚園、保育所がそ
れぞれ1回の観察・参加であった。学生から
の要望も受け、本年度は、学校、保育所とも
最低2回の観察・参加ができるよう計画して
いく。

③講義

意欲的に取り組めるように事前・事後指導

*石巻専修大学人間学部人間教育学科

の有機的な結びつきを図り、学生の要望を取り入れたり、グループで考えさせたりしながら進めていく。

④時間割

保育の様子をいろいろな場面から観察・参加できるように、2限時に重なる昼食時を避け、1限目からできるよう教務委員会にお願いしていく。

3 到達目標と授業計画

(1) 到達目標

- ①保育所、幼稚園、小学校教育の概要を知る。
- ②子どもを取り巻く社会の現状と保育の現状を知る。
- ③現場を観察・参加し、今後の学修の展望を持ち、自己の教職への適性や意欲を確認する。

(2) 到達目標の達成に向けて

昨年度の成果と課題を受けて、次の5点を取り入れながら実践する。

- ◆観察・参加する上での事前指導の徹底。
- ◆協力してもらう学校と保育所を増やし、観察参加する回数を、保育所、幼稚園、小学校それぞれ2回とする。
- ◆事前、事後指導の有機的な結び付き（観察⇒振り返り⇒観察⇒まとめ）と授業計画の工夫。
- ◆時間割を1限に位置付ける。

(3) 授業計画（金曜日の1限目～）

	保育・教育	内 容 等
①	ガイダンス	・到達目標、評価等
②	保育所と幼稚園	・保育所、幼稚園教育 ・保育の現状（ビデオ視聴）
③	小学校	・小学校教育 ・参観のポイント（ビデオ視聴）
④	保育所 観察 1	・石巻保育所、井内保育所、 矢本東保育所を続けて2回 参観
⑤	保育所 観察 2	
⑥	まとめ 1	・学んだこと（保育所）
⑦	幼稚園 観察 1	・住吉幼稚園、稲井幼稚園、 矢本中央幼稚園を続けて2

⑧	幼稚園 観察 2	回参観
⑨	まとめ 2	・学んだこと（幼稚園）
⑩	小学校 観察 1	・石巻小学校、須江小学校、 矢本東小学校を続けて2回 参観
⑪	小学校 観察 2	
⑫	まとめ 3	・学んだこと（小学校）

※昨年度比：保1、幼1、小2増

※受講生36名を3グループに編成

A：井内保、矢本中央幼、石巻小（12名）

B：矢本東保、稲井幼、須江小（12名）

C：石巻保、住吉幼、矢本東小（12名）

(4) 保幼小との事前打合せ

事前打合を以下の内容等で行った。

◇「保育・教育研究」のねらいについて

- ・保育や学校で観察・参加を行うことで、大学で学習した内容を省察し、今後の学修への展望を描き、自己の教職への適性や意欲を確認する。
- （3年次の教育実習：5月に保育、8～9月に小学校、11～12月に幼稚園）

◇参観する日時、学生の人数と名前

◇参観の流れ

- ・時間帯 10：15～12：15 の流れの中で

◇講話等

- ・小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の魅力について 20～30 分の講話を依頼

参観の流れ（例）

- ア：挨拶、顔合わせ、自己紹介
- イ：保育参観・参加、授業参観
- ウ：講 話
- エ：質 疑
- オ：御礼の挨拶（学生代表）

4 観察するまでの講義

(1) 保育の現状について

◇子育て環境の悪化

- ・夜型化（大人の夜更かし）
→遅寝、遅起きでのリズム
→しっかり食べない

・遊びの変化

- 自然環境の悪化で自由に遊べない
- TV、ビデオ、ゲーム中心

・少子化と核家族化の問題

- コミュニケーション能力の低下

◇発達の弱さ

- ・生まれてくる赤ちゃん自体育ちににくいケース
- 食品添加物、放射能等の間接的な影響

・アレルギーのある子どもの増加

- 0～3才の食べ物アレルギー

◇ことばの発達が遅い子どもたち

- ・表情の変化に乏しい赤ちゃん
- ・ことばを発しない子どもの増加

◇睡眠と食事のリズムが身に付きにくい

- ・家庭での学習時間と睡眠時間は年々減少傾向にある。

◇軽度障害児の増加

- ・10～15%

◇親の育て方の課題

- ・夜型化
- ・虐待
- ・わが子との向かい合い方が分からない
- ・2才になると、習い事や体操教室、学習塾に通わせる
- ・TV、DVD、タブレットなどの使用
- ・こんな子どもにそだってほしいと思う NO.1 は「自己主張できる子」

(2) 保育所と幼稚園の比較

いくつかの観点から保育所と幼稚園の比較を行った。また、一日の流れに保育活動の様子をビデオで視聴した。主な観点は次の通りである。

◇法律と目的、保育指針

◇勤務体系

◇子どもの一日の過ごし方、保育内容

◇対象年齢と入園方法

◇開所時間や休み

教育・保育を一体的に行い、地域における子育て支援を行う機能としている、認定こども園についても触れた。

(3) 小学校の教育

登校から下校まで、子どもの活動の様子を下記の順でビデオで視聴した。

児童の登校後→業前活動→朝の会→授業→業間

活動→給食→昼休み→授業→帰りの会→清掃

(4) 保育観察・参加のポイント

〈観察・参加の仕方〉

- ・活動の妨げとならないようにすること
- ・自分の雰囲気、存在感、圧迫感等に配慮すること
- ・できるだけ視野を広くとること
- 〈クラス毎（年齢毎）の活動場面〉
- ・子どもの興味・関心を高めるためにどのような工夫をしているか。
- ・子どもの個人差にどのように対応しているか。
- ・活動のための環境構成はどのようになされているか。
- ・トラブルの場面で、保育者はそれぞれどのように受容、対応しているか。

〈一緒に活動する場合〉

- ・自分から子どもへの関わりは行わない。（危険を伴う場合は別）
- ・紙芝居を頼まれた時は、表情豊かに、登場人物になりきって読む。
- ・危険な遊びは行わない。（振り回すなど）

(5) 授業参観のポイント

〈導入・展開・整理〉

- ・学習への興味・関心を高めるよう工夫されているか。
- ・学習のめあて（課題）が提示され、それを子どもが受け止められたか。
- ・子どもの考える時間が保証されているか。
- ・学習形態（個、ペア、グループ、全体）をどのように工夫しているか。
- ・学習のまとめがきちんとされているか。

〈その他〉

- ・子どもの意見を指導者は大切にしているか。
- ・学習規律がしっかりしているか。
- ・子どもが学びやすい環境になっているか。

(6) 観察・参加にあての留意点

◇全体

- ・大学からお願いをして参観させていただいてることを忘れないこと。
- ・守秘義務を守ること。（知り得た情報は外部に漏らさないこと）

◇観察・参加の仕方

- ・参観のポイントをもって観察すること。

- ・気づいたこと、考えたこと、学んだこと等メモをしっかりとること。
- ・保育所、幼稚園、小学校ごとレポートにまとめること。

◇マナー等

- ・小学校はスーツ、幼稚園、保育所は運動ができる身軽な服装とする。
- ・笑顔や明るい挨拶を忘れないこと。

◇持ち物

- ・上靴、メモ帳
- ・名札（ガムテープに名前を書き、胸に貼る）



- ・笑顔で接すること
- ・言葉を聞いてやること
- ・心に寄り添うこと
- ・日々の積み重ねを大切にすること

◇学生の質疑

- ・一気に話しかけられた時の対応の仕方
- ・ボール遊びで取り合いになった時の対処法
- ・トラブルやけんかの仲介はどのように
- ・言葉をあまり話せない子どもとの接し方
- ・食べ物が床に落ちた時

（2）学生のレポートから（学んだこと：抜粋）

①給食の時間、ほとんどの子どもは箸をきちんと使っていた。好き嫌いはそれぞれあったが、「1個だけ食べよう」と言うと素直に頑張って食べていた。「すごいね。かっこいいね。」と先生が褒めると、とても喜んでいて。しっかりと見て褒めることが大事なんだと分かった。

②先生方は、「まんま」「ばくばく」とか、簡単な単語で話し、「おいしい？」「ねむい？」と疑問で話すのではなく、「おいしいね」「ねむいね」「がんばれ」と子どもの表情や行動に合わせて言葉を遣っていた。

③子どもたちの前で話す時は、まず先生に注目させる。それができてから大きくはっきりした声で話していた。また、伝える時は一度にたくさんの情報を与えると子どもたちは混乱するので、大事なことを簡単に伝えていたところに気づいた。



④給食の時間、サラダを残していたので先生が「お姉さんにかっこいいところ見せてあげて！」という声をかけたら全部食べたところを見せてく

5 保育所での観察・参加

（1）石巻保育所・井内保育所・矢本東保育所

①日時 5月8日（金）5月15日（金）

②時間帯と主な流れ

- ・10:15～12:15
- ・迎えの会→自己紹介→クラス毎活動
→講話→質疑応答→御礼の挨拶

③グループ編制

- ・石巻保育所 12名
- ・井内保育所 12名
- ・矢本東保育所 12名

④講話

〈石巻保育所〉 岩渕 恭子 所長

〈井内保育所〉 板倉 幾子 所長

〈矢本東保育所〉 亀山 一子 所長

亀山所長からの講話を以下に記す。

◇30 数年を経験して

- ・子どもたちの笑顔に助けられる
- ・職場の仲間と協力
- ・初めての一步がたくさんある
- ・褒めることで育てる
- ・年齢に応じた指導と見守り

◇保育にあたって心がけてきたこと

れた。先生は「〇〇ちゃんすごい！かっこいい！」と大きな声で褒めていた。



⑤着替えをさせる時、先生方は子どもたちに「みんなで競走しよう」と声をかけていた。すると子どもたちは周りの友達に負けてはいられないとばかりに、一生懸命着替えに取り組んでいた。こうした子どもの意欲をかき立てるアイデアが大変印象に残った。このような競走は良いと思った。

⑥物事が思い通りにいかず、かんしゃくを起こし泣いてしまう子どもがいたが、先生はじっと見守っていた。そして出来た時には、私も照れるくらいに大げさに褒めていた。先生の存在は偉大なんだと改めて実感した。

⑦一人一人に対応し、良いことをした時には笑顔で褒め、悪いことをした時には叱るが、叱るのもその行為がなぜ悪いのかを「自分だったら・・・」とか「皆で考えてみよう」など子どもたちと一緒に考えていた。

6. 幼稚園での観察・参加



(1) 住吉幼稚園・稲井幼稚園・矢本中央幼稚園

①日時 6月5日(金) 6月12日(金)

②時間帯と主な流れ

- ・10:15～12:15
- ・迎いの会→自己紹介→クラス毎活動
→講話→質疑応答→御礼の挨拶

③グループ編制

- ・住吉幼稚園 12名 ・稲井幼稚園 12名
- ・矢本中央幼稚園 12名

④講話

〈住吉幼稚園〉 赤間 彰 園長

〈稲井幼稚園〉 千葉 幸子 園長

〈矢本中央幼稚園〉 鈴木 春夫 園長

赤間園長からの講話を以下に記す。

◇幼稚園教諭の魅力について



- ・子どもたちの成長していく姿を見ることができる。
- ・子どもたちの最初の教育に携わることができる。
- ・子どもたちからも多くのことを学ぶことができる。
- ・日々成長していく子どもたちの姿を間近で見ることができる。
- ・子どもたちを思う気持ちが日々の原動力になる。

◇住吉幼稚園の教育について

- ・教育目標 (はきはき、ぐんぐん、にこにこ)
- ・教育目標達成のための具体的施策と努力事項
- ・本年度の重点目標
- ・教師に求められるもの

→個性を伸ばす、信頼される、限りない愛情と
厳しい姿勢、創意工夫する

(2) 学生のレポートから (学んだこと: 抜粋)

⑧幼稚園の先生方は、子どもたちと話をする時には中腰になるなどして子どもと視線を同じにしてみたり、子どもたちが喜んでいる時には一緒に全



力で喜んだり子どもに寄り添い、一体となる活動を展開していた。

⑨子どもたちの一人一人の主張が見えたように感じた。保育者が手を出してルールを決めるのではなく、子どもたちでルールを決めたり、「こうしたい」と言ったように言葉で表現したりする場面が多く見られた。そういった子どもたちの表現を見過ごすことのないように視野を広くして関わっていったら子どもたちにも良い影響を与えるのではないかと思った。

⑩遊びを見ていて感じたことは、遊びに入るまでの導入部分の重要性である。何の手遊びをやりたいかということ子どもたちに聞き、そのやりたい遊びを行ってから先生が用意していた遊びを行っていた。そのことがあったため、後で行ったフルーツバスケットというルール遊びでも集中力を切らさずに子どもたちは遊ぶことができた。

⑪親子で過ごせる時間を30分設けている。その日の出来事で良かったことや悪かったことを正直に保護者に伝えるということだ。子どもの成長を楽しみにしている保護者と共有できれば、保護者に対する信頼を寄せることができるし、保護者にとっても仕事のやりがいにもつながる。両者の理解が深まり、子どもにも良い影響を与えると思った。

⑫子どもたちから学んだことは、積極性で見守ることの大切さである。子どもたち同士で物の取り合いになった場面があった。けんかになると思っていたが、子どもたちだけで「順番にやろう」と言い、解決策を見つけれられたのである。すぐに手を差しのべるのではなく、見守ることの大切さを

感じた。

⑬父の日のプレゼントで似顔絵を描いていた。失敗して戸惑っていた子どもにどうしたらよいか分からなかったので、質疑応答の場で聞いたところ、子どもの作った作品に「失敗はない」と、おっしゃっていたのが強く印象に残った。

⑭年少さんということもあり、先生が話をしている時でも友達と話をして聞いている子どもがいた。そこで先生は、大きな声で話すのではなく小さな声で話し始めた。すると、話をしていた子どもが話すのを止めて先生の話を集中して聞くようになった。言葉の強弱をつけることで、子どもたちが聞こうとする先生方の工夫を着ることができた。

7. 小学校での観察

(1) 石巻小学校・須江小学校・矢本東小学校

①日時 6月26日(金) 7月3日(金)

②時間帯と主な流れ

- ・10:15～12:15
- ・挨拶→授業参観→本時の授業について
→講話→質疑応答→御礼の挨拶

③グループ編制

- ・石巻小学校 12名 ・須江小学校 12名
- ・矢本東小学校 12名

④講話

〈石巻小学校〉 佐藤 文夫 校長
柏晃 司 主幹教諭
〈須江小学校〉 菅原 智 教諭
〈矢本東小学校〉 高橋 良一 校長



菅原 智 教諭の講話を以下に記す。

◇授業について

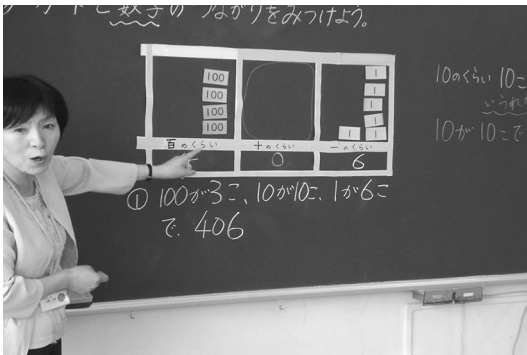
- ・実物を観察することができない学習
- ・視聴覚機器を用いた学習

◇普段の授業で心掛けていること

- ・授業を通した学級づくり
- ・教材理解、指導技術、児童理解
- ・意図的な指名
- ・発表している児童ではなく、聞いている児童の様子を見る
- ・実験、観察の結果を基にしたイメージ化

◇教師としての仕事

- ・子どもの成長を見守ることができる
- ・授業者を演じる楽しさ、子どもの反応を見る喜び
- ・子どもは素直。教師が願い、働きかけたことに応えてくれる
- ・やりがいと感動がたくさんある



(2) 学生のレポートから (学んだこと: 抜粋)

⑮理科の授業で興味を持たず、授業に集中できていない子どももいた。そんな中で、先生が一人の女子の姿勢の良さを褒めて「姿勢がいいなあ！」と声を小さく響くように言った。そうしたら興味を持たなかった子どもが姿勢を良くして、その後も授業をしっかりと聞いていた。

⑯なぜこのクラスのレベルが高いのかを考えた。きっとそれは、楽しむことを大事にしているからだ。ラジカセから流れるだけで、手をたたいたり、歌ったり、揺れたり、「静かに！」などと注意せず、そのまま続けさせていた。これにより感性が自然と磨かれるのだと思った。

⑰多くの子どもの発言させようとする意図があった。特にすばらしいと感じたことは、子どもたち



が自分の考えをノートに書いている時、先生が座席表を持って歩き回り、それぞれの考えを書き留めていたことである。なかなか発言できない子どもを指名できる指導法を学んだ。

⑱授業では子どもが何かに気付いた時は、すかさず褒めることで、クラス全体と教師との距離を近づけることができる。そうすることで、クラス全体の雰囲気良くなり、一人一人が自主的に授業に参加できる。そのためには、教員の演技力が欠かせないと思った。

⑲先生が間違いの答えを生かすことで、正しい答えを導き出すとともに、より一層理解が深まることを学んだ。授業の中での先生の発問は授業を進める上で重要な役割を果たしていると思った。

⑳問題を解けた子どもは、まだ解けていない子どもに教えてあげたり、自分から積極的に活動したりするなどの行動が見られた。普段の授業への関心度が高いことや他の子どもを気遣うことができる優しさが育っていることを感じた。



㉑子どもたちが発見したことに対して、たとえば答えが間違っていたとしても「そうだね。そういう考えもあるね。」と子どもたちの意見を否定せず、褒めるなど意欲的に学習に取り組めるような授業

の進め方になっていた。

6. 成果と課題

本講義は開設されてから2年目を迎える。昨年度の成果と課題を受け、保育や授業の観察をしての学生のレポート、授業評価、アンケート調査から本年度の成果と課題を述べる。

(1) レポートから

保育所、幼稚園、小学校をそれぞれ2回の保育観察・参加と授業観察を通して学生が学んだことは以下の通りである。(○の番号はレポート番号)

①保育所での観察・参加での学び

- ・好き嫌いのある子ども(①・④)、思い通りにいかない子ども(⑥)に対して
→見守り大げさに褒める
- ・子どもに気持ちを尋ねる時(②)や全体で話す時
→子どもの表情や行動に合わせた言葉遣いをする
→端的に大きな声で話す
- ・着替えのさせ方の方法(⑤)
→意欲をかきたてる言葉かけをする
- ・悪いことをした時の指導(⑦)
→なぜ悪いのかを一人一人に考えさせる

②幼稚園での観察・参加での学び

- ・子どもと話をする時(⑧・⑭)
→子どもと同じ目線で話す
→場に応じて強弱を付けて話す
- ・遊びのルールを守らせる(⑨)
→子どもたちでもルールを考えさせる
- ・楽しい遊ばせ方の工夫(⑩)
→子どもたちの遊びたいものを取り入れてから教員が意図した遊びを行う
- ・保護者との信頼関係を築くための方法(⑪)
→一定時間、その日の出来事を伝え話し合う
- ・物の取り扱いになった場合(⑫)
→見守ったり、解決策を考えさせたりする
- ・子どもの作品の見方(⑬)
→子どもの作品に失敗はない

③小学校の観察での学び

- ・授業で集中できない子ども(⑮)
→他の子どもの良さを全体の前で褒めること
- ・楽しい授業にするために(⑯・⑳)

- 日常の積み上げと教え合いを大切にする
- ・発言を苦手としている子どもへの対応(⑰)
→座席表を用意し、一人一人の考えを記入用する
- ・何かを発見した時(⑱・㉑)の対応
→大いに褒める、
- ・理解を深めさせる(⑲)
→間違いを生かす

以上、学生が、保育所、湯遅延、小学校を観察・参加して学んだことは次の通りである。

〔保育所〕

- ◆見守ることの大切さ
- ◆子どもの表情や行動に合わせた言葉遣い
- ◆意欲をかきたてる言葉かけ〔幼稚園〕
- ◆子どもと同じ目線で話したり強弱を付けて話すことの大切さ
- ◆子どもたちにルールを考えさせることの効用
- ◆子どもの作品の見方
- ◆保護者との信頼関係を築くための方法

〔小学校〕

- ◆個や全体での褒め方
- ◆教え合いを取り入れた授業
- ◆座席表の活用
- ◆間違いを生かした授業の効用

(2) アンケート調査から

〈調査の内容〉

- ①それぞれ2回ずつの観察はどうでしたか。
ア：よかった イ：もっとあった方がよい
ウ：分からない
- ②観点をもって観察しましたか。
ア：した イ：しなかった
ウ：するときもあった
- ③ア、ウと回答した人は、その観点を書いてください。
- ④子どもの活動の様子を見て、感動したことは何ですか。
- ⑤講和を聞いて印象に残っていることは何ですか。
- ⑥観察の際、特に気を付けたことは何ですか。
- ⑦観察をして保育士や教師になりたいという思いが強くなりましたか。

⑧来年の実習に向けて今から取り組みたいことや努力したいことは何ですか。

(2) 調査の結果 33名／36名

〈①：2回ずつの観察について〉

- ・よかった (29名)
- ・もっとあった方がよい (2名)
- ・分からない (2名)

保育所、幼稚園、小学校それぞれ2回ずつの参観は、よかったという回答がほとんどである。

〈②：観点をもって観察したかについて〉

- ・した (22名)、しなかった (4名)、するときもあった (7名)

全員が観点をもって観察することができるように、事前指導を徹底していく必要がある。

〈③：観察の観点〉

- ・けんかや仲間はずれの場面があった場合、どのように指導するか。
- ・子どもたちは先生の話をしっかり聞いているか。
- ・子どもとどのように接しているか。
- ・先生はどんなことに気を付けているか。
- ・指導者の発言の意図を考える。
- ・興味を持たせるためにどのような工夫をしているか。
- ・どのように授業の展開を工夫しているか。
- ・先生の発言に対して子どもはどのように反応するか。

保育観察、授業観察が初めてということもあり、学生にとっては難しかったようである。事前指導の際に、ビデオの視聴を利用して具体例を挙げて指導していく。

〈④：子どもの様子を見て感動したこと〉

→保育所・幼稚園

- ・何に対しても一生懸命だった。
- ・思っていたよりルールを守ったり、互いのことを考えたりすることができていた。
- ・人に伝える時、体全体で表現する。
- ・自分から歩み寄ると、笑顔で接してくれる。

- ・子どもと一緒に遊びや楽しさを共有できた。

→小学校

- ・子どもたち、先生方の気持ちのよい挨拶。
- ・授業に積極的に参加している。
- ・分かった時、満足そうな顔になっていた。
- ・ペアで教え合ったり、先生の発問に積極的に答えていた。

子どもたちの一生懸命に取り組む姿や思いやりの心が育っていること、また、一緒に遊んだり、学んだりできる姿に感動を示している。教育の最も大事な側面をとらえている。

〈⑤：講話を聞いて、印象に残ったこと〉

- ・3回中、2回負けて1回は勝つこと。子どもたちに負けることの重要性を教えている。
- ・安全を第一に考えている。
- ・育ちざかりの子どもたちに対する教育はとても重要な意味がある。
- ・まず第一に自分たちが楽しむことである。
- ・子どもと遊ぶ時は、先生も本気になれ。
- ・本気を見せれば、子どもたちにきちんと伝わる。
- ・一度に皆を相手にすることは無理である。上手に順番に対応する。
- ・先生でも日々失敗している。
- ・子どもたちの成長を見ることができ、やりがいのある仕事である。
- ・成長するのは子どもだけではなく、自分も共に成長する。
- ・子どもに「ダメ」と言うてはいけないということ。
- ・今日をどう過ごさせるかだけでなく、明日も行きたいと思わせる場所にすること。
- ・子どもたちは全員できる力を持っているということ。
- ・授業はドラマ、教師は役者である。
- ・保育や教育の意義と役割について。
- ・震災以降の防災教育について。
- ・目指す教師像を持ち続けることが大切である。
- ・人間性を磨くことを忘れてはならない。

「保育・教育研究」のねらいは、現場を観

察・参加し、今後の学習の展望を描き、自己の教職への適性や意欲を確認することである。所長、園長、校長、授業者による講話内容は、教育や保育の本質、指導者としての姿勢、子どもへの接し方など、心に残る内容として振り返っている。教職を目指す学生にとっては、意欲の持続につながったと思われる。

〈⑥：観察・参加をするにあたって特に気を付けたこと〉

- ・礼儀やマナー。
- ・言葉遣い。
- ・笑顔で接すること。
- ・子どものスピードに合わせること。
- ・先生の一つ一つの対応の意味を考えること。
- ・子どもを優しく見守る。
- ・自分から積極的に話しかける。
- ・子どもにつまらないと思わせない。
- ・大事だと思ったことはメモを取る。
- ・指導者の行動を一つ一つ見逃さないようにする。
- ・先生にも子どもにも視点を置くこと。

観察・参加するにあたってのポイントや留意すべきことについて事前指導を行った。礼儀やマナー、言葉遣いなどに気を付けることや主体性をもって観察する姿勢が見られる。

〈⑦：観察・参加をして教師や保育士になりたいという思いが強くなったか〉

- ・強くなった（15名）
- ・少し思った（13名）
- ・あまり思わなかった（5名）

観察・参加を通して、28名が教師や保育士になりたいという思いをもった。5名については、今後の教職に関する講義を深く受け止めて受講することを期待したい。

〈⑧：来年の実習に向け今から取り組みたいこと〉

- ・積極的に子どもたちに話しかけられるようにしたい。
- ・観察の時に見つけた工夫点などを身に付けたい。

- ・簡単にできる手遊びなどのレパートリーを増やしたい。
- ・模擬授業や指導案の作成を頑張りたい。
- ・黒板にきれいな文字が書けるよう練習したい。
- ・教材を知り、基礎をしっかり身に付けたい。
- ・指導法を学びたい。
- ・学力だけでなく、教員として必要な能力を身に付けたい。
- ・たくさんの経験と幅広い知識を身に付けたい。

実習に向けては、後期から各教科の初等教科教育法において、模擬授業や指導案の作成をすることになる。今後は、ボランティア等を通して子どもたちと接する機会を持つことや多くの経験と幅広い知識を身に付けられるよう真摯な態度が必要不可欠である。

アンケート調査から次のことが言える。

- ◆2回ずつ（保育所・幼稚園・小学校）の観察・参加はよかった。
- ◆観察の事前指導（観察の観点）を具体的に指導していく必要がある。
- ◆子どもたちの活動する姿や教員、保育士の指導力に感動を覚えている。
- ◆所長、園長、校長の講話を聞いて、教職への意欲的な持続につながっている。
- ◆マナーや言葉遣いなどに気を付けて観察・参加することができた。
- ◆今後の学習の展望を描くことができた。

（3）授業評価から 33名/36名

〈授業改善アンケート調査から〉（5段階）

5：はい

4：まあそうである

3：どちらともいえない

2：あまりそうとはいえない

1：いいえ

質 問	昨年	今年
・意欲的に受講したか。	4.8	4.8
・得るところがあったか。	4.6	4.8
・教員には熱意はあったか。	4.3	4.5
・教授法は分かりやすかったか。	3.9	4.0
・授業はよく準備されていたか。	4.5	4.6

・教員の話し方は聞き取れたか。	3.5	3.5
-----------------	-----	-----

昨年度と今年度との比較において、次のことが言える。

- ◆講義内容や計画に対する評価が高く、意欲的に取り組んでいる。
- ◆「得るところがあったか」の評価が高い。観察・参加する回数を増やしたことによると思われる。
- ◆教員の話し方や教授法は昨年度あまり変わらず改善が求められる。

7. 今後の方向

本講義の成果と課題を踏まえ、次年度の「保育・教育研究」の計画を大きく事前指導と事後指導と大きく2点からとらえ、実践していきたい。

(1) 観察・参加の事前指導の充実

全員が自分なりの観点が持って観察・参加できるように、

- ・ビデオの視聴（保育所、幼稚園、小学校）を通して考えさせる。
- ・これまでの観点例を紹介していく。
教職への適性や意欲を確認できるように、
- ・観察、参加する意義を理解させていく。
- ・保育所、幼稚園、小学校との打ち合わせを、充実（本講義の意義と位置づけ、本実習までの計画）させていく。

(2) 観察・参加の事後指導の充実

個々に学んだことを共有したり、さらに知りたいことや疑問点を話し合えるように、

- ・レポートを基に話し合う時間を設ける。
- ・教職への適性や意欲を持続できるように、
- ・今後の大学生活において、一人一人が何をすべきかを考えさせていく時間を設ける。

(3) 観察・参加の回数

授業評価からも推察できるように、来年度も保育所、幼稚園、小学校を2回ずつ観察・参加できるよう計画していく。

【資料】

石巻市立石巻小学校学校経営方針：「石巻市立石巻小学校教育目標」 資料1 PP12

東松島市立矢本中央幼稚園学校経営方針「矢本中央幼稚園の経営の概要」 資料2 PP13

文部科学省・厚生労働省 幼保連携推進室「認定こども園について」 資料 PP14

【参考文献】

文部科学省：小学校学習指導要領 総則編 2008年

内閣府・文部科学省・厚生労働省：認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 2014年

無藤隆・神長美津子 編著：幼稚園教育の新たな展開 2003年

無藤隆：幼稚園教育要領ハンドブック 2013年

大場幸夫：保育所保育指針ハンドブック 2013年

相馬範子：保育の現状と子どもの未来 2013年

資料 1

石巻市立石巻小学校教育目標
よく学び、心身ともにしなやかで、たくましい児童の育成を図る

【目指す学校像－１】

一人一人の子どもが伸び伸びと過ごし、新しい時代を生き抜く上で必要な知・徳体の力とそれを支えるために必要な力をしっかりと身に付けることができる学校

知育（あたまそだて）

- ◆基礎的・基本的な学習内容を確かに身に付けさせる授業の創造
 - 基礎的・基本的な内容の確実な定着
 - 「書く活動」の意図的な設定、「母国語」を愛する新庄や論理的記述力の育成
 - 外国語活動の指導の充実

徳育（こころそだて）

- ◆心を耕す教育活動の展開
 - 自他を大切にすることの児童の育成
 - 我が国の伝統文化を大切にすることの教育の推進
 - 人としてよりよく生きようとする心身の育成
 - 関わり合う力を育み、望ましい人間関係を築く異年齢集団での活動
 - 思いやりの心を育み、たくましい心を育てる行事の創造

体育（からだそだて）

- ◆体力向上・健康増進を図る教育活動の継続
 - 体力づくりの継続と推進及び健康安全・体育的行事の充実
 - 子どもに、自分の生活を見つめさせる指導

食育（いのちそだて）

- ◆「知育・徳育・体育」の根本を支えるものとしての「食育」の推進
 - 食に関する授業実践
 - 給食の時間における指導
 - 学校と家庭・地域との連携

【目指す学校像－２】

一人一人の教職員が使命感に燃え、豊かな発想で授業や行事を創り出していくことができる学校

【目指す学校像－３】

保護者や地域の住民が、子どもや教職員の姿を通して愛情と期待をもつことができる学校

校訓五箇条

子どもたちが生き生きと、そして切磋琢磨しながら日々人間として成長していくことを願い、本校第11代校長 錦織 玄三郎 先生が明治39（1906）年に制定した「校訓五箇条」を復活・制定

- 一、げんきよくせよ（心身共に健康であること）
- 一、まじめにせよ（勤勉であること）
- 一、ひとりでせよ（自主的・自律的であること）
- 一、よくこらえよ（忍耐強くあること）
- 一、しかとおぼえよ（学業に打ち込むこと）

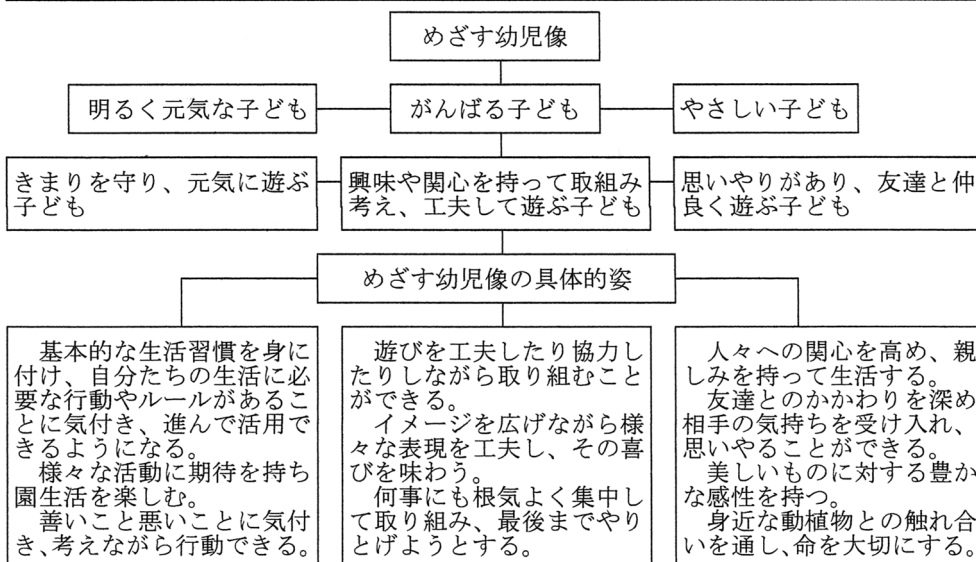
資料 2

矢本中央幼稚園の経営の概要

(1) 教育目標・めざす幼児像と具体的な姿

教育目標 心やさしくたくましい子どもを育成する

目 標	4 歳 児	いろいろな活動に参加し、生活経験を積み重ねながら、友達のかかわりを広げることができるようになる	意欲的に遊びに参加し、友達と一緒に楽しく遊びを進めるようにする	5 歳 児
--------	-------------	---	---------------------------------	-------------



(2) 経営の基本方針

幼児一人一人の個性を伸ばす保育に努め、生涯にわたる人格形成の基礎を培う

- ①創意と活力に満ちた園経営と幼児らしい生活の創造に努める。
- ②心身の発達に応じた教育課程の編成・実施・改善に努め、「生きる力」の基礎を育てる。
- ③主体的な活動（遊び）を通して幼児一人一人の望ましい発達を援助する。
- ④発達、学び、生活の連続性を踏まえ、小学校と連携した教育活動を進める。
- ⑤健康・安全、防災に関する指導の充実と規範意識や道徳性の芽生えを育む指導に努める。
- ⑥家庭・地域、保育所・小学校との連携、幼稚園の機能を生かした子育て支援に努める。
- ⑦市立幼稚園ならではのよさを生かした新しい時代の経営を求める。

(3) 本年度の努力事項

- ①基本的な生活習慣の定着と生活行動自立の力の育成
- ②共同的遊びの育成と集団における自己充実の支援、仲間づくりを進める保育の創造
- ③幼児の道徳性の芽生えを培う指導の充実
- ④保育環境の整備と自然体験・社会体験など直接的、具体的な体験を通した保育の展開
 - ・知的好奇心を養い、五感をつかって対象に働きかける力と思考力の芽生えを育む保育
- ⑤幼児の発達に応じた保育の工夫と健康、食育、安全・防災教育の充実
 - ・からだを動かす遊びを楽しむ心を育てる教材の工夫と楽しい幼児体育と幼児体育教室
 - ・健康生活を実践する基礎となる力を育てる「早起き・早寝・朝ご飯」運動
 - ・身体への気付きを促し、健康への関心と意欲を高める歯みがき指導
 - ・自ら表現を楽しみ、表現への意欲を育む環境作りと援助
 - ・交通安全教育、防災教育、不審者対策の強化を通した安全・安心の園づくり
- ⑥市立幼稚園ならではの子育て支援と小学校接続期の指導の充実
 - ・「親育ち」について学ぶ保育参観時の保育講話と家庭教育学級の講座
 - ・子育てにゆとりを生み出す「延長保育」、「ママの日保育」
 - ・保育・教育情報や教職員の交流、幼児・児童間の学びの交流を通した幼小連携の推進
- ⑦家庭・地域社会に開かれた信頼される幼稚園づくりの推進
- ⑧園内研究を通じた職員の資質と指導力の向上

研究主題「いきいきと遊びを楽しむ幼児の姿を目指して」

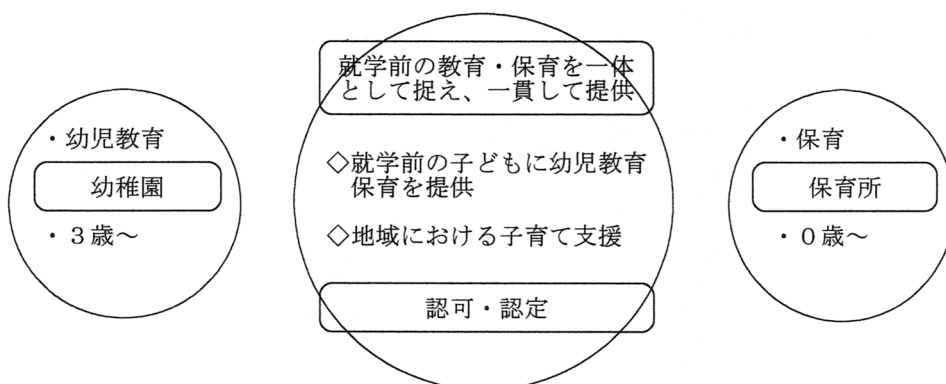
資料3

認定こども園について

認定こども園とは

◇教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設。以下の機能を備え、認定基準を満たす施設は、都道府県等から認定を受けることができる。

- 1 就学前の子どもに幼児教育・保育を提供する機能
(保護者が働いている、いないにかかわらず受け入れて、教育・保育を一体的に行う機能)
- 2 地域における子育て支援を行う機能
(すべての子育て家庭を対象に、子育て不安に対応した相談活動や親子の集いの場の提供などを行う機能)



多様なタイプ

◇認定こども園には、地域の実情や保護者のニーズに応じて選択が可能となるような多様なタイプがある。

- ◆幼保連携型：幼稚園的機能と保育所的機能の両方の機能を併せ持つ単一の施設として、認定こども園としての機能を果たすタイプ
- ◆幼稚園型：認可幼稚園が、保育が必要な子どものための保育時間を確保するなど保育所的な機能を備えて認定こども園としての機能を果たすタイプ
- ◆保育所型：認可保育所が、保育が必要な子ども以外の子どもも受け入れるなど、幼稚園的な機能を備えることで認定こども園として機能を果たすタイプ
- ◆地方裁量型：幼稚園・保育所いずれの認可もない地域の教育・保育施設が、認定こども園として必要な機能を果たすタイプ

認定こども園の認定基準

◇内閣総理大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣が定める基準に従い、また参酌して各都道府県等が条例で定める。

◇職員資格

〈幼保連携型〉

- ・保育教諭を配置、保育教諭は幼稚園教諭の免許状と保育士資格を併用

〈その他の認定こども園〉

- ・満3歳以上⇒幼稚園教諭と保育士資格の両免許・資格の併用が望ましい
- ・満3歳未満⇒保育士資格が必要

◇学級編制：満3歳以上の教育時間相当利用時及び教育及び保育時間相当利用時の共通の4時間程度については学級を編制

◇教育・保育の内容

〈幼保連携型、その他の認定こども園〉

- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえて教育・保育を実施（幼稚園型は幼稚園教育要領、保育所型は保育所保育指針に基づくことが前提）
- ・小学校における教育との円滑な接続
- ・認定こども園として特に配慮すべき事項を考慮